

2015年3月期 第2四半期決算説明会資料

(2871)

株式会社ニチレイ

【お問合せ先】

財務IR部 IRグループ

TEL: 03-3248-2167

E-mail: irinfo@nichirei.co.jp

URL: <http://www.nichirei.co.jp/ir/index.html>

目次

【連結業績サマリー】

売上は好調に推移、営業利益はほぼ計画通りに進捗 1

【加工食品事業】

下期も引き続き利益改善を進め、通期計画を達成する 2

価格改定は計画通り進捗、下期は商品ミックスを改善する 3

米国、タイの子会社を軸に海外販売を拡大させる 4

【水産・畜産事業】

相場変動リスクに備えながら、安定利益を確保する 5

【低温物流事業】

悪化する国内外の事業環境を踏まえ、施策を着実に実行する 6

輸配送コストの追加増による影響を、運送効率化で和らげる 7

事業基盤の強化に向けて、国内外で新設冷蔵倉庫が稼働 8

【参考資料】

データ集 9～13

注:

- ① 当資料のグラフ・表などで表示されている数値は、別途断り書きがある場合を除き、金額単位表示未満は四捨五入し一部で端数調整のため切り上げ・切り捨てを行っている。
- ② 「前回見込」は2014年5月13日に発表した見込を、「E」、「見込」は2014年10月28日に発表した今期の見込を示している。

売上は好調に推移、営業利益はほぼ計画通りに進捗

単位: 億円

	第2四半期(累計)						第3・4四半期(累計)						通期					
	実績	前年同期間比		前回見込比		見込	前年同期間比		前回見込比		見込	前年同期間比		前回見込比		中計比		
		増減	率	前回見込	増減		増減	率	前回見込	増減		増減	率	前回見込	増減	中計	増減	
加工食品	1,093	89	9%	1,070	23	1,101	61	6%	1,070	31	2,194	150	7%	2,140	54	1,975	219	
水産	347	2	0%	333	14	339	-2	-1%	353	-14	686	-0	-0%	686	0	650	36	
畜産	420	45	12%	375	45	410	-16	-4%	425	-15	830	29	4%	800	30	725	105	
低温物流	890	57	7%	865	25	870	19	2%	865	5	1,760	76	5%	1,730	30	1,726	34	
不動産	25	0	1%	24	1	22	-3	-13%	23	-1	47	-3	-6%	47	0	48	-1	
その他	18	3	18%	17	1	23	1	6%	24	-1	41	4	11%	41	0	40	1	
調整額	-100	-6	-	-99	-1	-101	-4	-	-95	-6	-201	-10	-	-194	-7	-194	-7	
売上高合計	2,692	189	8%	2,585	107	2,665	56	2%	2,665	0	5,357	245	5%	5,250	107	4,970	387	
加工食品	22	11	114%	25	-3	33	10	40%	30	3	55	21	62%	55	0	73	-18	
水産	2	1	168%	2	0	3	-1	-21%	3	-0	5	1	19%	5	0	5	0	
畜産	2	4	-	2	0	3	-0	-3%	3	-0	5	4	293%	5	0	7	-2	
低温物流	41	-3	-7%	42	-1	41	-4	-10%	40	1	82	-7	-8%	82	0	83	-1	
不動産	11	-1	-11%	11	-0	10	-1	-12%	10	0	21	-3	-11%	21	0	21	0	
その他	1	1	91%	1	0	3	-1	-16%	3	-0	4	-0	-0%	4	0	4	0	
調整額	-2	-2	-	-5	3	-5	-6	-	-2	-3	-7	-8	-	-7	0	-7	0	
営業利益合計	77	11	17%	78	-1	88	-4	-4%	87	1	165	7	4%	165	0	186	-21	
経常利益	76	14	22%	76	0	83	1	1%	83	-0	159	15	10%	159	0	179	-20	
当期純利益	43	1	2%	48	-5	52	5	11%	47	5	95	6	7%	95	0	110	-15	

為替レート	2014年 見込	2014年 実績	2013年 実績
米ドル/円	105.00	102.47	95.59
ユーロ/円	135.00	140.43	125.50

ROE	7.4%	0.1%	7.4%	-	8.6%	-1.2%
EPS	33円	2円	33円	-		

注: 実績は1月~6月までの期中平均で算出

参考: 14年4月~9月までの期中平均レート 米ドル/円 103.05円

- 売上高は主力の加工食品と低温物流に加え、畜肉相場が上昇した畜産も伸長し見込比増収。下期は加工食品が全体を牽引し、通期でも増収を見込む。
- 営業利益は加工食品が見込比で未達だが、全体ではほぼ見込並みで着地。下期は上期に実施した価格改定の効果が本格化する加工食品の寄与もあり通期では計画を達成する。
- 当期純利益は下期の発生を想定していた固定資産売却損・除却損の一部が前倒しとなり見込比減益。通期では計画通りを見込む。

加工食品事業

下期も引き続き利益改善を進め、通期計画を達成する

単位: 億円

		第2四半期(累計)					第3・4四半期(累計)					通期				
		実績	前年同期間比		前回見込比		見込	前年同期間比		前回見込比		見込	前年同期間比		前回見込比	
			増減	率	前回見込	増減		増減	率	前回見込	増減		増減	率	前回見込	増減
加工食品	売上高 計	1,093	89	9%	1,070	23	1,101	61	6%	1,070	31	2,194	150	7%	2,140	54
	家庭用調理品	292	13	5%	294	-2	312	20	7%	303	9	604	33	6%	597	7
	業務用調理品	480	39	9%	464	16	485	15	3%	479	6	965	54	6%	943	22
	農産加工品	103	3	3%	99	4	95	2	2%	89	6	198	5	3%	188	10
	海外	125	23	23%	111	14	136	20	17%	124	12	261	43	20%	235	26
	その他	93	10	12%	102	-9	73	3	5%	75	-2	166	14	9%	177	-11
	営業利益	22	11	114%	25	-3	33	10	40%	30	3	55	21	62%	55	0

- 1.調理冷凍食品の販売は引き続き好調に推移。営業利益は増益となるが、商品ミックスの改善が進まず見込を下回る。下期は円安を含む原材料・仕入コスト増の影響が大きくなるが、2Q実施の価格改定効果の本格化に加え、主力家庭用調理品の拡販などにより通期計画を達成する。
- 2.家庭用調理品は主力の米飯類が全体を牽引。下期は主力商品の取扱店舗数を増やす一方で、キャンペーンなどの販売促進策を適切に実行し、売上拡大と利益率改善を同時に進める。
- 3.業務用調理品は中食向けのチキン加工品の販売が引き続き伸長。下期はより利益率を重視した商品政策を推進する。

価格改定は計画通り進捗、下期は商品ミックスを改善する

営業利益の増減要因(2014/3期-2015/3期)

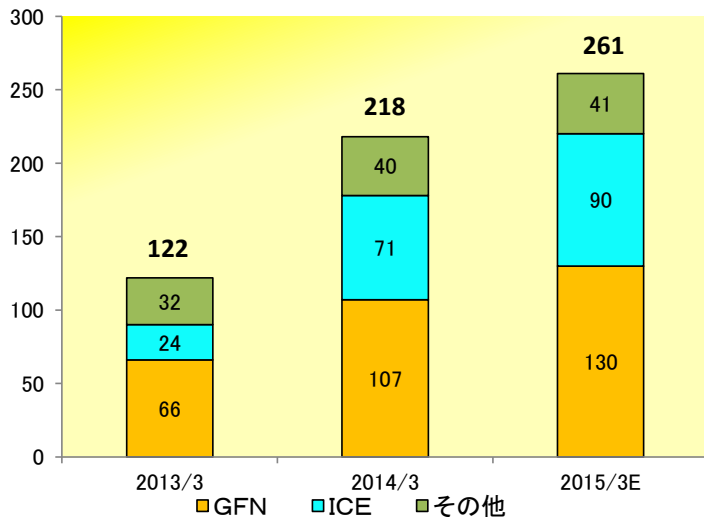
単位:億円

	第2四半期(累計)		第3・4四半期(累計)		通期	
	実績	前回見込比	見込	前回見込比	見込	前回見込比
2014/3期 営業利益	10	-	24	-	34	-
増益要因	28	0	29	7	57	7
価格改定・商品ミックスによるコスト吸収効果	20	-3	21	4	41	1
国内の生産体制強化	-2	-2	3	1	1	-1
増収効果	1	-1	4	1	5	0
集約・効率化	0	-1	2	0	2	-1
減価償却費増	-3	0	-3	0	-6	0
GFPTニチレイの業績影響額	4	4	0	0	4	4
増収効果	4	1	3	2	7	3
生産性改善	2	0	2	0	4	0
減益要因	-16	-3	-20	-4	-36	-7
円安による原材料・仕入コストの上昇	-8	0	-15	-4	-23	-4
原材料・仕入コストの上昇	-5	-2	-5	-1	-10	-3
その他	-3	-1	0	1	-3	0
2015/3期 営業利益	22	-3	33	3	55	0

- 1.価格改定の効果は前期実施の継続分に加え、2Q実施の業務用輸入調理品についても計画通り現れる。下期は主力商品のミックス改善を積極的に進める。
- 2.鶏肉や豚肉などの原材料・仕入コスト増が見込をやや上回る。下期は更なる円安進行による輸入品の仕入コスト増に加え、牛肉などの産地価格上昇を想定。
- 3.GFPTニチレイは欧州向けの販売拡大に加え、タイ国内の鶏肉(生肉)相場が堅調に推移。下期は前期の第3加工ライン稼働による欧州向け販売増の効果が一巡する。

米国、タイの子会社を軸に海外販売を拡大させる

売上高: 億円 加工食品事業の海外売上高の推移



注: 2013/3のICEの売上高は半期分の実績

GFPTニチレイ 欧州向けの生産量
(加工品と未加熱品の内訳)

	現在		→	単位: トン/月 第4ライン稼働後	
	加工品	未加熱品		加工品	未加熱品
加工品	600			1,100	
未加熱品		700			200

<ロースト加工品>



<スチーム加工品>



- 1.イノバジアン・クイジーン(ICE)によるアジアンフーズの販売は引き続き好調に推移。今期投入した新ブランド商品もマーケットに浸透し始め、大手量販店向けに家庭用商品の販売が大きく伸長。利益面では価格改定の実施により粗利益率は改善しているが、物流費の計上方法の見直しによる一時的な経費が発生したことなどにより、営業利益は2億円(のれん償却額負担後)を見込む。
- 2.GFPTニチレイ(GFN)の欧州向け加工品の品質が評価され、販売が好調に推移。加工ラインの能力不足が課題であったが、第4ラインを増設し来年4月から稼働させることにより解消に向かう。欧州向け加工品の生産割合が高まることで、売上高、利益両面の拡大に繋げる。

水産・畜産事業

相場変動リスクに備えながら、安定利益を確保する

単位:億円

		第2四半期(累計)					第3・4四半期(累計)					通期				
		実績	前年同期間比		前回見込比		見込	前年同期間比		前回見込比		見込	前年同期間比		前回見込比	
			増減	率	前回見込	増減		増減	率	前回見込	増減		増減	率	前回見込	増減
水産	売上高	347	2	0%	333	14	339	-2	-1%	353	-14	686	-0	-0%	686	0
	営業利益	2	1	168%	2	0	3	-1	-21%	3	-0	5	1	19%	5	0
畜産	売上高	420	45	12%	375	45	410	-16	-4%	425	-15	830	29	4%	800	30
	営業利益	2	4	-	2	0	3	-0	-3%	3	-0	5	4	293%	5	0

- 1.水産は依然高値圏にあるエビの取扱が減少したが、円安を背景に国内産品の輸出が好調に推移。利益面では相対的に値ごろ感があったタコの販売価格上昇が貢献。需要が高まる第3四半期に向け拡販を継続するとともに、引き続き慎重な買付に徹し在庫リスクに備える。
- 2.畜産は輸入品を中心に仕入コスト増に対する販売価格への転嫁が進んだことに加え、疫病が発生したポークの代替需要として取扱が伸長した国産及び輸入チキンが売上、利益両面に寄与。下期は国産ビーフの取扱の見直しにより利益率の改善を進めるとともに、相場が全般的に高止まりにあるなか、在庫回転を重視した販売に努める。

低温物流事業

悪化する国内外の事業環境を踏まえ、施策を着実に実行する

単位:億円

	第2四半期(累計)					第3・4四半期(累計)					通期				
	実績	前年同期間比		前回見込比		見込	前年同期間比		前回見込比		見込	前年同期間比		前回見込比	
		増減	率	前回見込	増減		増減	率	前回見込	増減		増減	率	前回見込	増減
売上高計	890	57	7%	865	25	870	19	2%	865	5	1,760	76	5%	1,730	30
国内小計	732	33	5%	719	13	716	17	2%	711	5	1,448	50	4%	1,430	18
物流ネットワーク	461	5	1%	452	9	452	-14	-3%	446	6	913	-9	-1%	898	15
地域保管	271	28	12%	267	4	264	31	13%	265	-1	535	59	12%	532	3
海外	150	24	19%	140	10	144	7	5%	143	1	294	31	12%	283	11
その他・共通	8	0	3%	6	2	10	-4	-31%	11	-1	18	-4	-19%	17	1
営業利益計	41	-3	-7%	42	-1	41	-4	-10%	40	1	82	-7	-8%	82	0
国内小計	38	-3	-8%	40	-2	37	-4	-11%	37	0	75	-7	-9%	77	-2
物流ネットワーク	14	-4	-24%	16	-2	18	0	-1%	18	0	32	-5	-12%	34	-2
地域保管	24	1	6%	24	0	19	-4	-18%	19	0	43	-3	-6%	43	0
海外	5	-1	-18%	6	-1	4	-1	-17%	5	-1	9	-2	-18%	11	-2
その他・共通	-1	1	-	-4	3	-1	1	-	-2	1	-2	2	-	-6	4

営業利益の増減要因(2014/3期-2015/3期)

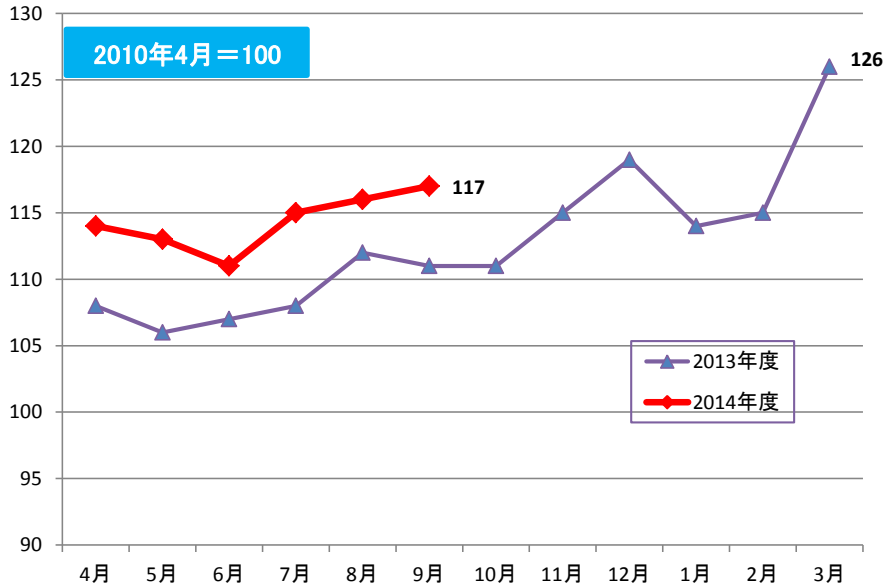
	第2四半期(累計)		第3・4四半期(累計)		通期	
	実績	前回見込比	見込	前回見込比	見込	前回見込比
2014/3期 営業利益	44	-	45	-	89	-
増益要因	5	2	8	3	13	5
新増設による増収効果	1	0	1	0	2	0
運送効率化	1	1	3	1	4	2
業務改善効果	2	1	4	2	6	3
為替影響	1	0	0	0	1	0
減益要因	-8	-3	-12	-2	-20	-5
新増設による償却負担増	-1	0	-4	0	-5	0
輸配送コスト増(純額)※	-4	-2	-5	-1	-9	-3
電力料増	-2	0	-2	0	-4	0
欧州業績影響額	-1	-1	-1	-1	-2	-2
2015/3期 営業利益	41	-1	41	1	82	0

注: 輸配送コスト増の影響額は、コスト上昇の総額から適正料金収受の効果金額を控除したもの

- 1.国内は前期に稼働した事業所の新設効果などにより増収。営業利益は輸配送コストの上昇などにより見込比で未達。下期も咲洲DC稼働による償却負担増に伴い減益となるが、事業全体で業務効率化を進める。
- 2.海外は欧州で運送需要の取り込みや為替影響もあり増収となるが、チキンや輸入果汁などの在庫減少が響き減益。下期は新規顧客の獲得や既存顧客の集荷拡大を進めるが、景気低迷も影響し減益を見込む。

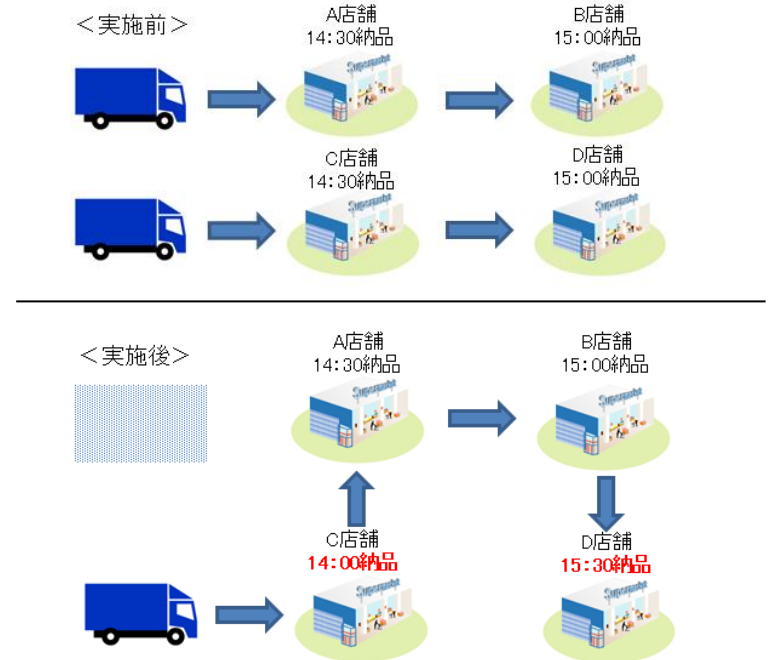
輸配送コストの追加増による影響を、運送効率化で和らげる

成約運賃指数(月別)の推移



出典: (社)全日本トラック協会発表のデータを当社が加工

配送ルート効率化(イメージ図)



1.トラックドライバー不足を背景に、輸配送コスト増の影響が深刻化。1Qではコスト増が先行したが、2Qからコスト吸収策の効果が現れている。

2.トラックドライバー不足は業界全体が抱える構造的な問題であり、下期以降も輸配送コスト増の影響は続くと想定される。新たな運送会社の掘り起こしや適正料金の収受に向けた取り組みを通じて、コストの純増額を縮小していく。併せて運送効率化も継続する。

事業基盤の強化に向けて、国内外で新設冷蔵倉庫が稼働

ロジ関西／咲洲DC



<概要>

設備投資総額(予定) 約90億円
設備能力 約4万トン
稼働開始時期 2014年10月

ロジ北海道／十勝DC



<概要>

設備投資総額(予定) 約11億円
設備能力 約8千トン
稼働開始時期 2014年11月

SCGニチレイロジスティクス



<概要>

設備投資総額(予定) 約20億円
設備能力 約2万3千トン
稼働開始時期 2014年11月

さきしま

1. 大阪圏では咲洲DCが稼働を開始。新規貨物の獲得とグループ外倉庫へ保管を委託していた貨物の引き戻しにより、売上と利益の向上を図る。来期には、近隣の保管拠点スペースの一部を輸配送業務向けに用途変更し、従来不足していた輸配送機能を強化する。

かとうぐん おとふけちょう

2. 北海道河東郡音更町に十勝DCを新設。北海道東部の農産品などの集荷・配送拠点として活用。産地から全国へ運ぶ幹線輸送のニーズを取り込む。

3. タイでは持分法適用会社のSCGニチレイロジスティクス(SCGN)がバンコク近郊に冷蔵倉庫を新設。日本向け輸出貨物を扱うほか、タイ国内で消費される貨物の物流や、欧州などへの国際一貫物流の拠点として幅広い業務の受託を目指す。

參考資料

2015年3月期第2四半期 連結バランスシートの変動要因

単位: 億円(未満切り捨て)

科目	14/3	14/9	増減	
〔資産の部〕				
流動資産	1,315	1,372	56	①
固定資産	1,869	1,935	65	②
資産の部合計	3,185	3,307	121	
〔負債・純資産の部〕				
流動負債	955	1,020	65	③
固定負債	861	864	3	
負債の部合計	1,816	1,884	68	
純資産の部	1,368	1,422	53	④
(うち株主資本)	1,248	1,276	28	
有利子負債	1,060	1,069	8	
(うちリース債務除く)	857	882	25	
科目	13/9	14/9	増減	
設備投資額	122	112	-9	
(うちリース資産除く)	107	103	-3	
減価償却費	70	74	3	
(うちリース資産除く)	51	55	4	

【主な要因】

- ① 売上債権 +62
(売上の増加と季節的要因)
- ② 有形固定資産 +26
(主力事業の収益基盤拡大のための設備投資)
- ③ 買掛金 +23
(季節的要因)
- ④ 利益剰余金 +28、その他の包括利益累計額合計 +20

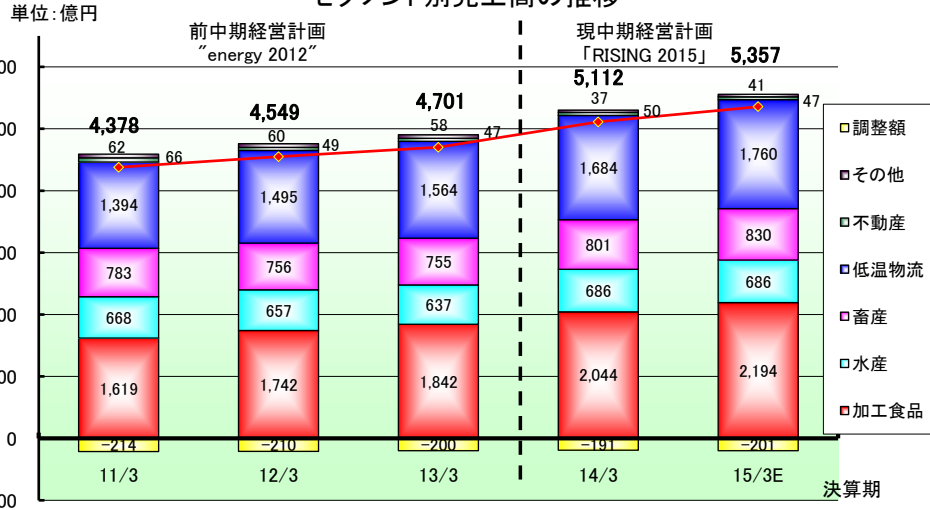
2015年3月期第2四半期 営業外収支・特別損益の変動要因

単位：億円(未満切り捨て)

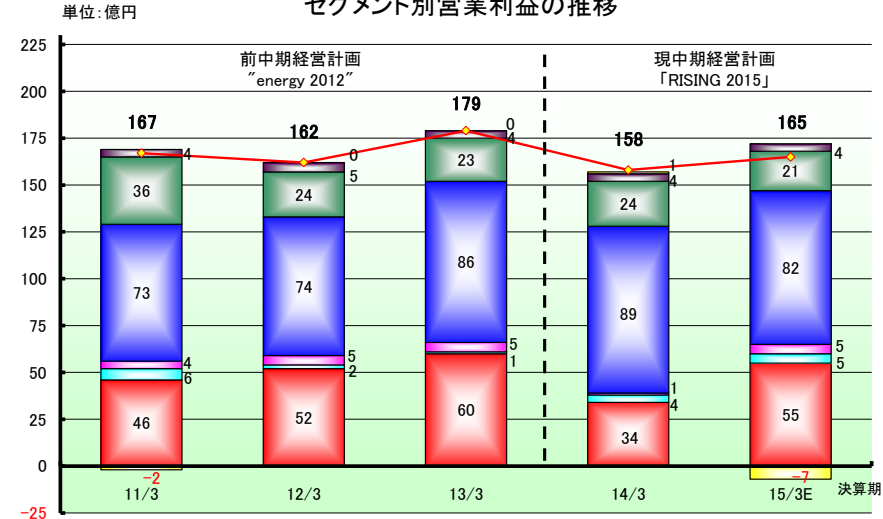
プラス表示は利益を示す	第2四半期累計			通 期		
	13/9	14/9	増減	14/3	見込	増減
【営業外収支】	-3	-0	2	-13	-6	7
(主要項目)						
金融収支	-0	-1	-1	-2	-6	-4
持分法による投資損益	0	0	-0	-7	0	① 7
【特別損益】	9	-5	-15	9	-9	-18
(主要項目)						
投資有価証券売却益	14	—	-14	21	—	-21
固定資産売却損・除却損	-4	-6	-1	-9	-10	-0
減損損失	-0	-0	0	-4	-0	4

①前期に東京団地冷蔵の冷蔵倉庫建て替えによる損失を見積もり計上

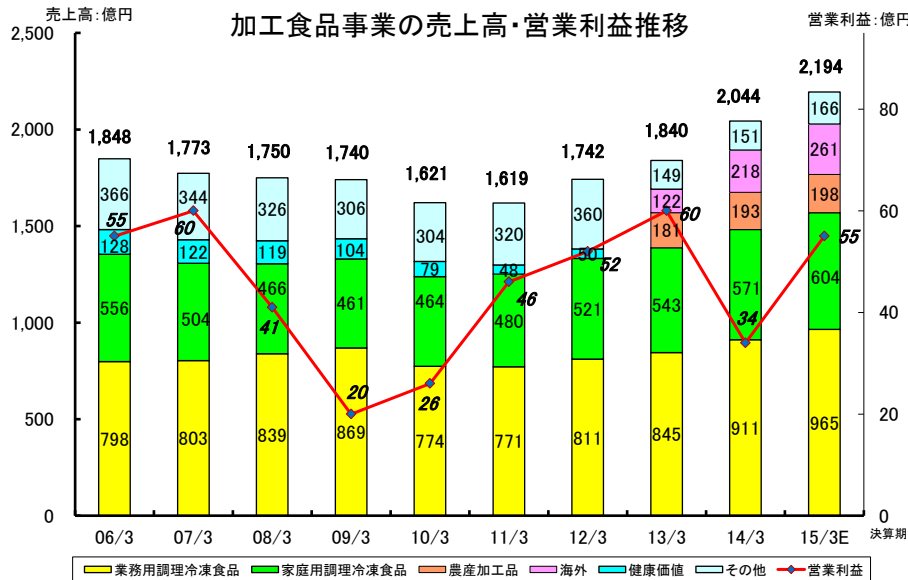
セグメント別売上高の推移



セグメント別営業利益の推移



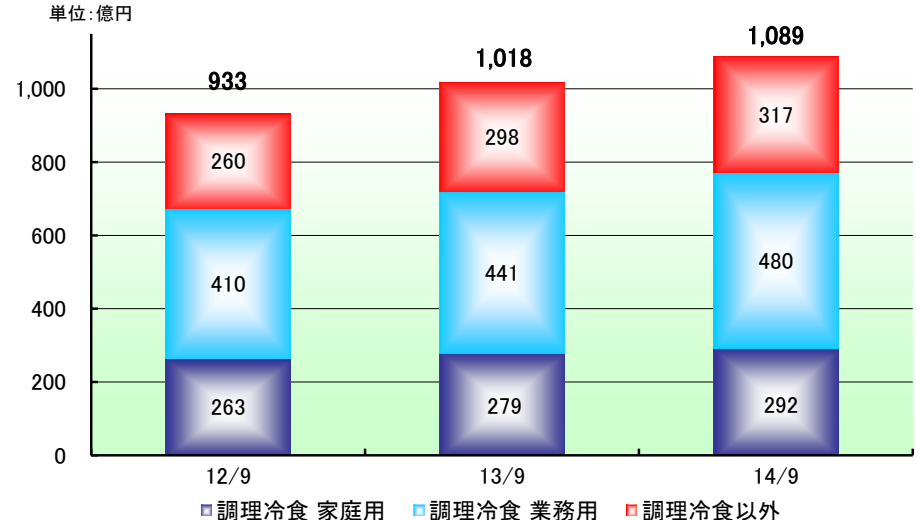
加工食品事業の売上高・営業利益推移



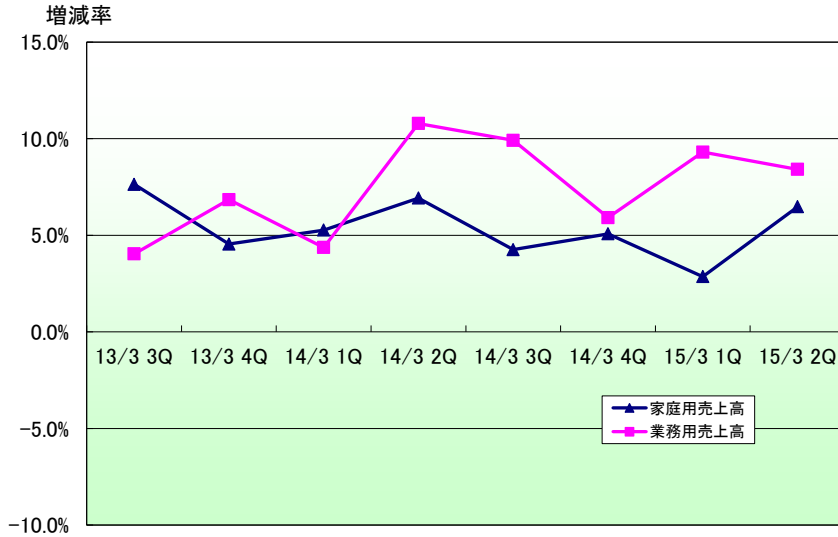
注: 13/3より、従来「その他」の区分に含めていた「農産加工品」と「海外」を別建てで表示。一方、「健康価値」は「その他」へ含めている。

冷凍食品売上高の推移

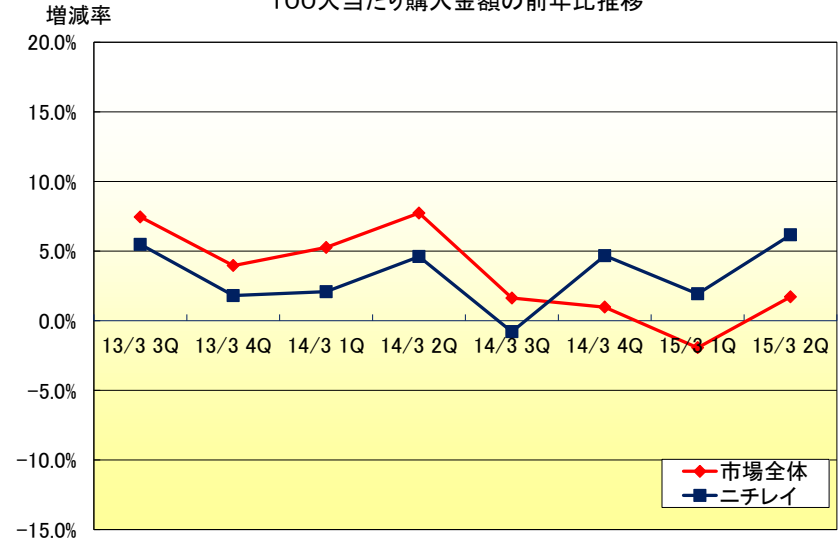
(日本冷凍食品協会定義にもとづき、加工食品のほか水産畜産の売上も含む)



当社の家庭用・業務用調理冷蔵の売上高前年比増減率推移

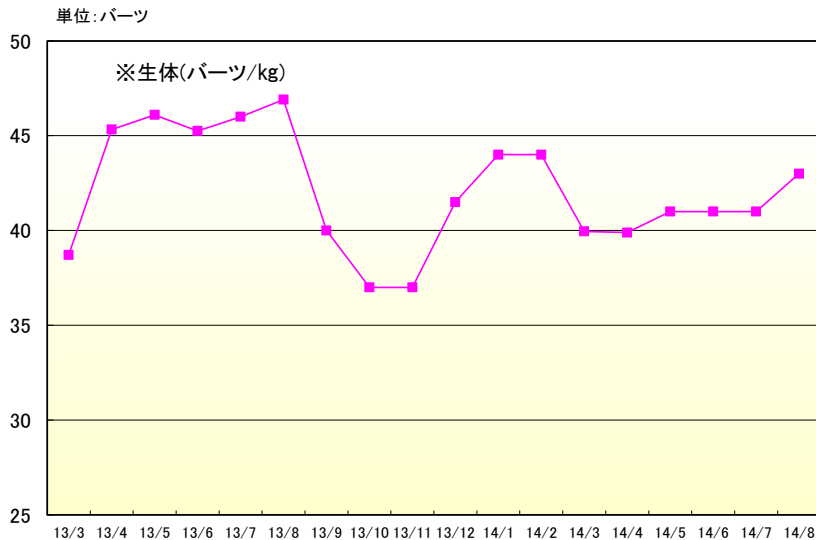


SCI 家庭用調理冷凍食品
100人当たり購入金額の前年比推移



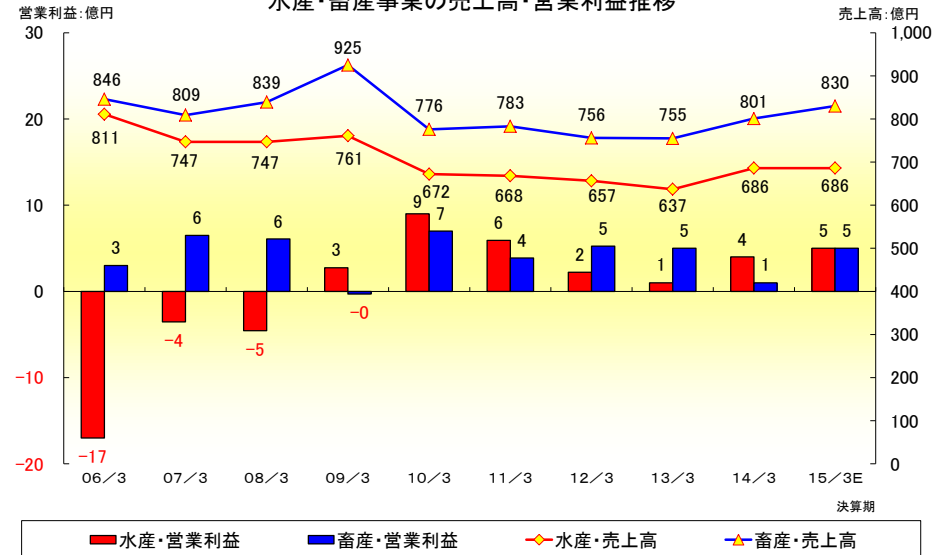
出典：インテージSCI(冷凍調理 100人当たり購入金額の前年同期比。購入ルート=生協店舗を除く)

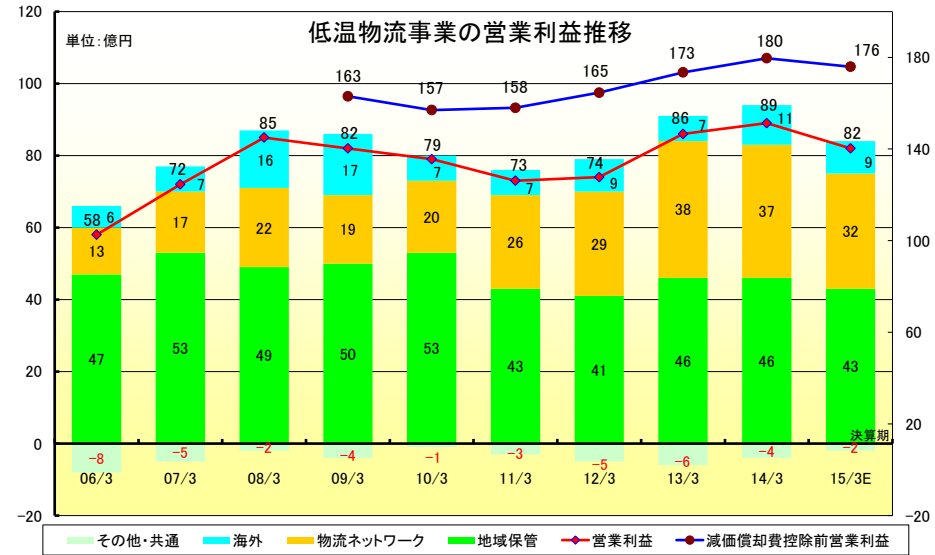
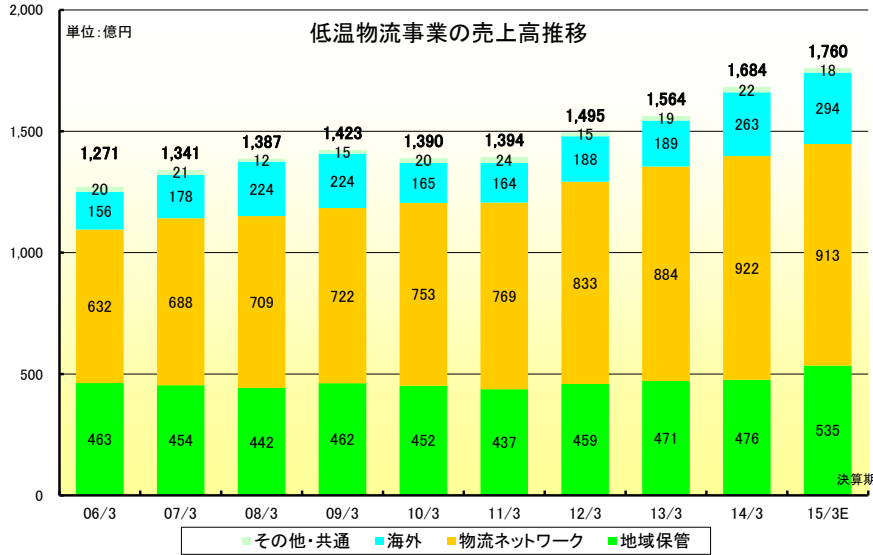
タイ国内鶏肉卸売価格の推移



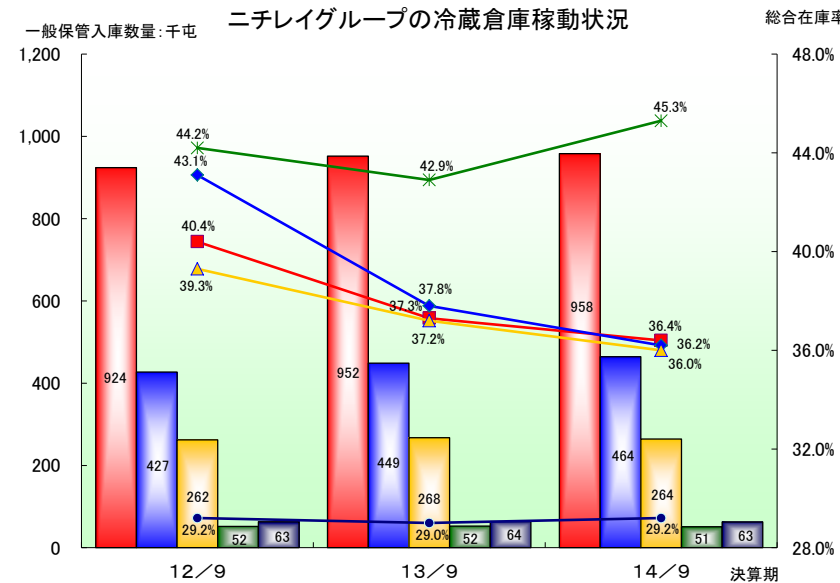
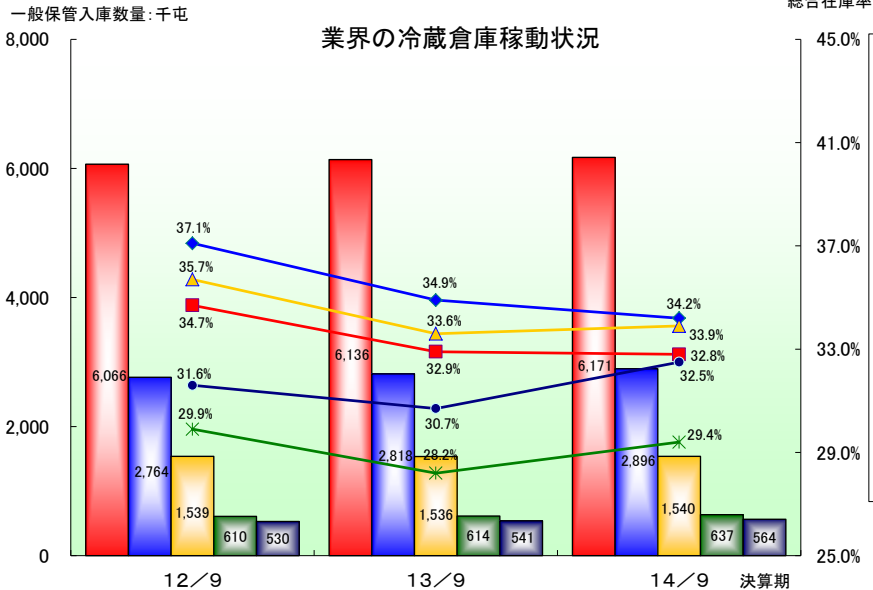
出典：(独)農畜産業振興機構(alic)発表のデータを当社が加工

水産・畜産事業の売上高・営業利益推移





冷蔵倉庫の稼働状況(業界は日本冷蔵倉庫協会資料を当社で加工)



注: 在庫率は冷蔵庫内の全スペースにおいて貨物が占める割合を指す。スペースには通路や作業空間などの荷物が置けない空間が通常半分程度含まれる。

当資料取扱い上のご注意

当資料に記されたニチレイの現在の計画・見通し・戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであります。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」その他これらの類義語を用いたものに限定されるものではありません。これらの情報は、現在において入手可能な情報から得られたニチレイの経営者の判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。このため、これらの業績見通しのみ全面的に依拠して投資判断されることは、お控えいただくようお願いいたします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常にニチレイが将来の見通しを見直すとは限りません。実際の業績に影響を与え得るリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます：

- ①ニチレイグループの事業活動を取り巻く経済情勢および業界環境
- ②米ドル・ユーロを中心とした為替レートの変動
- ③商品開発から原料調達、生産、販売まで一貫した品質保証体制確立の実現性
- ④新商品・新サービス開発の実現性
- ⑤成長戦略とローコスト構造の実現性
- ⑥ニチレイグループと他社とのアライアンス効果の実現性
- ⑦偶発事象の結果
など

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また、リスクや不確実な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響も含まれます。当資料は、あくまでニチレイをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。